

『質的研究と社会実装』執筆要領

I. 原稿の体裁

原稿は以下の要領により A4 版で作成すること。

1. 1 ページの字数・行数

横書きで 1 行 40 字（全角）×40 行など、査読に当たって読みやすい設定とする。

2. 表紙

本文とは別に、所定の様式を使用した表紙を付ける。

3. 抄録等

- 原著論文，展望論文，実践報告，実践と論考，については，表題、日本語抄録（400～500 字程度）、英文抄録（250～300 ワード程度），日英両言語による 3～5 項目のキーワードを記載した別紙を添付する。
- 抄録は，背景・目的・方法だけでなく，結果・考察等を含めた論文全体の内容を要約したものである。
- 論文の冒頭に「目次」は入れない。ただし，分割して掲載することを編集長が認めている場合は，この限りではない。

4. ヘッダー・フッター

- ヘッダーは付けない。フッターには中央にページ番号を挿入する。

II. 論文の長さ

原稿の長さは、『質的研究と社会実装』編集規程』に従い，原則，原稿の区分に応じた制限字数以内とする。

III. 倫理的配慮・謝辞等について

- 論文の内容が倫理的配慮を必要とするものである場合には，研究の実施にあたって倫理的配慮をどのように行ったかを記載すること。
- 研究協力者や組織，研究資金提供団体などへの謝辞は，本文末（引用文献の項目の前）に記載する。その際，個人のプライバシーに十分留意すること。

IV. 記述上の一般的注意

- 文章の区切りには、読点の代わりにコンマ（,）を用い、文章の末尾には句点（.）を用いる。
- 原則として西暦で記述する。ただし、年号の記載が必要な場合は、1937（昭和 12）年のように（ ）内に併記する。
- 本文については、以下のように記載する。
 - 論文の構成が明らかになるように適切に見出しをつける。
 - 見出しは、数字は、I 1（1）の順に使用する。
- 本文は、和文は MS 明朝、英文は Times New Roman・Century 等、査読に当たって読みやすいフォントおよびサイズを使用する。英語論文は、行間を 1.5 又は 2.0（ダブルスペース）とする。本文および別紙は査読に使用するため、氏名・所属等、投稿者が明らかになる情報を記載しない。特に、自身の文献を引用するとき、自身の先行研究等について言及するときにも、客観的に扱うこと。執筆者のプロフィールについては、特に必要がない限り、記載するべきでない。
- 論文の内容において、特に執筆者を明らかにする必要がある場合においては、該当箇所を明らかにした上で、別途その理由を明らかにする理由書を添付すること。

V. 表題

- 表題は、個々の論文の内容に即したものとする。副題をつける場合、主題と副題の間を日本語では 2 倍ダッシュ（——）で結び、英語ではコロン（:）で結ぶ。
- 英文表題（副題含む）の表記は前置詞・接続詞・冠詞を除き、単語の頭文字を大文字にする。

VI. 引用について

1. 本文中の引用文献の書き方

- 引用文献は注番号で記載するのではなく、すべて本文中の適切な箇所に、括弧内で示す。文中もしくは、文章の終わりに括弧【（ ）】を書き、（著者名 年号）の順番で書く。著者名と年号の間には、半角スペースを入れる。

例 イギリスの医療では市場原理が導入されてきたが(松田 2006), 一方で…

- 引用文献の著者を文の中に書くときには、著者名苗字（年号）と記述する。筆者が複数のときには、日本人名の時には、中黒（・）で区切る。著者が 3 名以上の場合には、” * * 他（2005） ” といった省略した形式とする。英語名の時には” & ” で区切り、3 名以上の場合には、 “ * * et al. （2005） ” とする。

例 松田(2006)は、イギリス医療への市場原理の導入を指摘しているが… 例 上野・中西(2003)によれば、当事者主権とは…

- 外国人名の表記については、当該論文での表記言語を使用する。翻訳書を引用する場合には、原著者の表記を用い、年号については、原著書の出版年=訳書の出版年、という形式で示す。

例 何についての不平等であるかを改めて主題化したのは Sen(1992=1997)で… ● 複数の文献を一か所で引用する場合には、セミコロン(;)で結合する。文献の順番は、文末の引用文献リストにでてくる順番とする。

例 エンパワメントの重要な側面である(Friedman 1992=1995; 狭間 2001)。

- 特に頁数を指定して引用を示したい場合は、著者名と発行年に続いてコロン(:)をおき、該当頁を示す。

例 患者中心主義とアクセスを分離して議論することの問題 (松田 2007:184-185)

- 同一著者で、同一年次に刊行された文献がいくつかある場合、混合を防ぐため年次の直後にアルファベット小文字 a, b, …を付して区別する。

例 このことを最も明示しているのは Sen (1983a) である。

2. 文末の引用文献一覧における文献の記述法

- 本文の後に引用文献を一覧として記載する。投稿原稿では、一覧の前に「引用文献」と記載し、本文と明確に区別できるようにする。引用文献は、著者名の五十音順、アルファベット順、等用いている文献に応じて、判別しやすく順序づけして記載する。
- 著者名は、論文に掲載されている氏名を用い、姓名を続けて記載する。英文の場合は、姓の後にカンマをおき、ファースト・ネームおよびミドル・ネームのイニシアル(それぞれピリオドを付記)を記載する。編者による単行本については、編者名後に「(編)」または「(ed.)」(英語文献単一著者の場合)、「(eds.)」(英語文献複数編者の場合)とつける。日本語文献では、複数の著者ないし編者の場合は、著者名を”・”で結合し、著者全員を記述する。英語の場合は二名の場合は”and”で結び、3名以上の場合は著者どうしはコンマ(,)で結び、最後の著者の前は“and”で結ぶ。

- 引用文献一覧の記載において、コンマの後は半角スペースを入れる。
- 単行本は、以下の要領で記載する。英文の単行本の表題は、斜体で表記する。英文での単行本の表記は、先頭文字を除き、前置詞・接続詞・冠詞以外の単語の頭文字を大文字とする。日本語の文献では、発行地を省略する。

著者名（複数の場合は中黒（・）で結合）（発行年）題。[発行地:] 発行者。

例

望月昭・中村正・サトウタツヤ（編）（2009）「対人援助学」キーワード集。晃洋書房。

Wing, J.K. and Brown, G.W. (1970) *Institutionalism and Schizophrenia*.
Cambridge: Cambridge University Press.

- 雑誌論文は、以下の要領で記載する。英文の雑誌名の表題は、斜体で表記する。英文の雑誌名の表記は、前置詞・接続詞・冠詞以外の単語の頭文字を大文字とする。論文名は、最初の文字の先頭は大文字とし、他は一般的な表記規則にしたがう。

著者名（複数の場合は中黒（・）で結合）（発行年）題。雑誌名，巻数(必要な場合は号数)，開始頁-終了頁。

例 松田亮三(2012) 普遍主義的医療制度における公私混合供給の展開—スウェーデンにおける患者選択制の検討。海外社会保障研究，178，4-20。

Milewa, T., Valentine, J. and Calnan, M. (1999) *Community participation and citizenship in British health care planning: narratives of power and involvement in the changing welfare state*. *Sociology of Health and Illness*, 21, 445-465.

- 単行本中の論文は、以下の要領で記載する。英文の単行本の表題は、斜体で表記する。英文での単行本の表記は、前置詞・接続詞・冠詞を除いて単語の先頭文字を大文字とする。論文名は、最初の文字の先頭は大文字とし、他は一般的な表記規則にしたがう。日本語の文献では、発行地を省略する。

著者名（複数の場合は・で結合）（発行年）題。編集者名（編 [英文では ed. または eds.]）単行本名。[発行地:] 出版社，開始頁-終了頁。

例 松田亮三(2010) 医療における対人援助のこれから. 望月昭・サトウタツヤ・中村正・武藤崇(編)対人援助学の可能性―「助ける科学」の創造と展開. 福村出版, 185-207.
Matsuda, R. (2010) Life-style choices and falls. Kondo, K. (ed.) Health Inequalities in Japan: An Empirical Study of Older People. Balwyn North: Trans Pacific Press, 37-50.

- 翻訳された文献の場合は、以下の要領で記載する。他の項目で該当する事項を準用する。

原著著者ないし編者名(原著発行年)原著単行本名. 原著発行地: 原著出版社. 訳者名(訳)(訳書発行年)訳書表題. 訳書発行者.

例 Rawls, J. (1971) A Theory of Justice. Cambridge, MA.: Harvard University Press. 川本隆史・福間聡・神島裕子(訳)(2010)正義論改訂版. 紀伊國屋書店.

- オンラインのみで発刊している雑誌や電子メディア情報の場合は、以下の要領で記載する。

著者名(発行年ないし最終更新年)論文名(ないし当該情報の表題). オンライン雑誌名あるいはウェブサイト名[, オンライン雑誌で巻号およびページ数が付されている場合はその情報](取得年月日 URL).

例 三野宏治(2012)対人支援関係における専門家の権力性に関する考察. 対人援助学, 1, 1-10(2012年8月29日取得 http://www.humanservices.jp/pdf/vol1_mino.pdf). 日本社会学会(2006)日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針. 日本社会学会ホームページ(2012年8月29日取得 <http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf>).

- 新聞記事や雑誌記事からの引用の場合は、以下の要領で記載する。

掲載誌(紙)名(発行年)資料題名. 発行日時[朝刊/夕刊, 掲載面数].

例 朝日新聞(2011)生活保護受給者9月も最多更新. 12月22日夕刊, 2面.

上記に記載されていない場合については、可能な限り統一性がとれるような様式で投稿する。この場合、引用資料が他者に明確に同定されるようまた過剰な情報がないようなものとする。

VII. 図表の表記

- 図・写真の原稿は明瞭なものとする。図版は原則として著者の責任で作成し、完成したものを提出する。ただし、編集実務上、編集長から必要な指示を行った場合は、それに従って修正を行う。
- すべての図・表には、図1，表1，Figure 1，Table 1 のように通し番号を付け、それぞれ題をつける。原則として、図題は図の下部に、表題は表の上部に付ける。
- 図表に対する注記は、図表の下部に配置する。
- 図表は本文中に挿入するか、別に作成し本文中におよその挿入位置を指定する。
- 図表が示す内容については、本文を参照しなくても主要な点が理解できるよう、題および注による説明を加える。

図表について、カラー印刷を希望する場合は、該当する図表についてその旨を記載する（この場

- 合、実費について著者負担が発生することがある）。

個人の写真等個人情報を含む写真等、権利者の許可が必要な場合には、あらかじめ権利者の許諾を得たうえで投稿しなければならない。● 図，写真等を引用する場合は出典を明記し，必要に応じて原著作者ならびに著作権保持者から使用許可を得たうえで投稿しなければならない。

付則

1. 本規程の改廃は、ものづくり質的研究センター『質的研究と社会実装』編集委員会が行う。
2. 本規程は、2023年1月1日に施行し、本誌創刊号から適用する。